

# 振興作物の生産拡大

課題番号 15

～トマトの生産性向上を目指す！～

対象：JAながぬまトマト生産組合員 74戸

## 1 活動の背景

長沼町のトマトは、令和3年度の作付面積18ha、販売額5億1,335万円で、地域の農業を支える重要な振興作物である。高温期の軟果や、低温期の裂果により廃棄される果実が多く、減収が問題となっていたため、生産性向上を目的として栽培支援を行った。

## 2 活動の経過（令和3～4年度）

目標事項：トマト製品出荷量増加

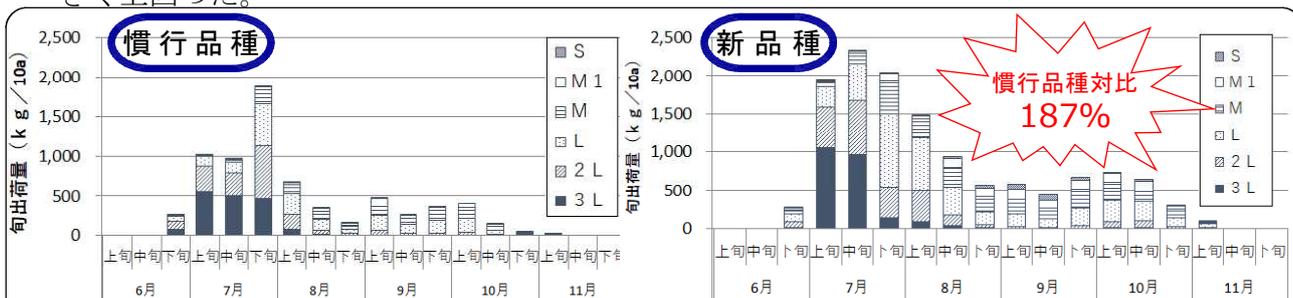
現状（R3）：1,597t →目標（R4）：1,700t

### (1) トマト新品種の定着

軟果・裂果対策として、硬玉で日もちが良く、裂果の発生が少ないとされる新品種の定着を図った。

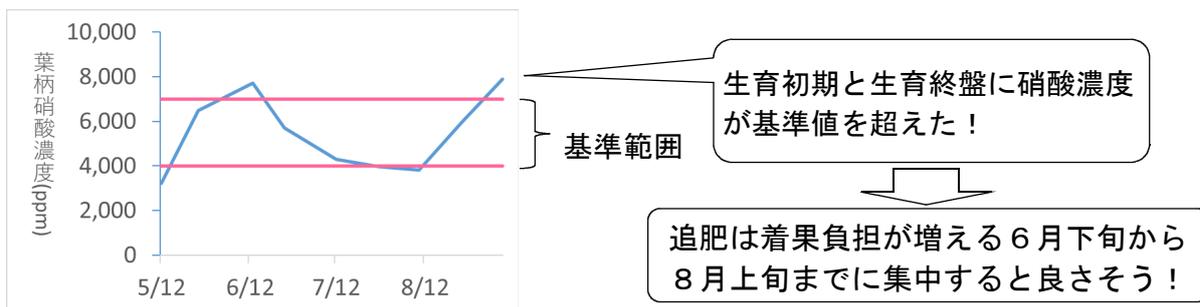
#### ①慣行品種との収量性の比較（R3年）

トマト生産組合役員3戸のハウスで、慣行品種と新品種の収量調査を行った。その結果、新品種は軟果や裂果が少なく製品率が高かったため、規格内収量は慣行品種対比187%と大きく上回った。



#### ②施肥量の確認（R4年）

新品種はこれまでの慣行品種よりも草勢をやや強めに管理することが望ましいとされる。そこで、窒素施肥量が適正か確認するため、2週間ごとに葉柄の硝酸濃度を測定した。



#### ③栽培技術指導（R4年）

R4年からはトマト生産組合全体で作付品種を新品種に切替えた。巡回や栽培講習会を通じて品種特性や栽培管理法に関する指導を行った。



写真1 生産組合員への巡回指導



写真2 生産組合講習会（R3年6月18日）

#### ④ 営農技術情報発信 (R3~R4年)

気象経過や病害虫の発生時期に合わせた情報発信を行った。

#### 生産者へ営農技術情報発信

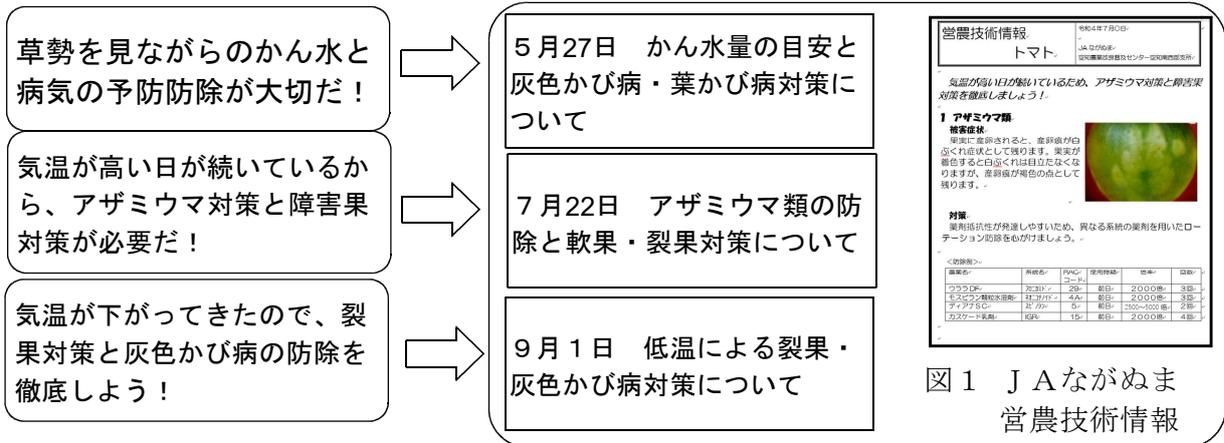


図1 J Aながぬま 営農技術情報

### 3 成果の具体的内容

#### 栽培技術指導により出荷量が増加!

目標事項：トマト製品出荷量 **到達度99%**

R3年、R4年共に新品種は軟果・裂果の発生が少なかった。R3年は慣行品種が軟果多発で出荷量が低下したが、R4年は新品種への切り替えにより安定した出荷が可能となった(図2)。

R2年トマト製品出荷量：1,688t(反収9.3t)



R3年トマト製品出荷量：1,597t(反収8.9t)



R4年トマト製品出荷量：1,685t(反収9.5t)

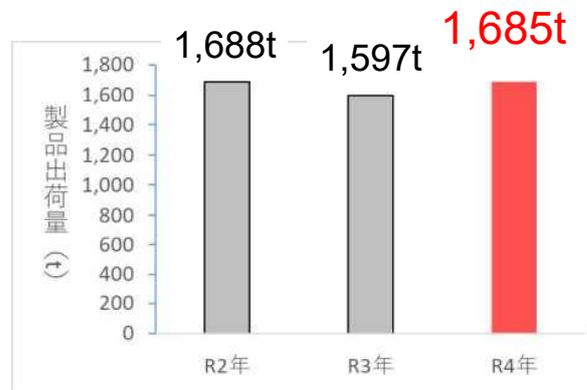


図2 J Aながぬまトマト出荷量の推移

品種切り替えにより反収はR3年比107%、R2年比102%に向上!

#### 棚保ちと品質の良さで市場からも高評価!

慣行品種は高温条件だと軟果が多発し、選果時細心の注意を払っていても、市場到着時点で廃棄するものが多かった。

一方、新品種は果実が硬いため市場に到着しても廃棄するものが少なかった。R4年は夏季に他産地の出荷量が減少する中、J Aながぬまでは安定した品質と出荷量により、市場から高い評価を得た。



写真3 出荷される新品種

### 4 今後の課題と対応

#### (1) 栽培技術指導

- ・土質に応じたかん水量の検討と生産者への情報提供。
- ・品種特性に合わせた適正な施肥量の検討。